

- 2) Hass, W.A., D.H. Holcker and J.K. Angell, 1967: Analysis of Low-level Constant Volume Balloon (Tetroon) Flights over New York City. Q.J.R.M.S., **93**, 483-493.
- 3) 井野英雄・根山芳晴, 1972: 海陸風の研究. 天気, **19**, 299-310.
- 4) 神戸海洋気象台, 1967: 瀬戸内海の気象と海象. 海の気象特集号, 13.
- 5) 宮田賢二・岡本雅典, 1972: 瀬戸内海の海陸風に関する研究 (1). 広島女子大学紀要, **7**, 71-88.
- 6) 日本気象協会・福岡本部, 1972: 下松市の大気環境調査.
- 7) Shih-Ang Hsu, 1970: Coastal Air-circulation System: Observations and Empirical Model. Mon. Wea. Rev., **98**.
- 8) W.M.O., 1960: The Airflow over Mountains. Technical Note. No. 34, WMO-No. 98, TP. 43.

構造物の耐風性に関する第3回シンポジウム 開催と発表論文の募集

共 催 電気学会, 土木学会, 日本気象学会 (幹事学会), 日本建築学会, 日本鋼構造協会

開催期日 昭和49年12月上旬

会 場 気象庁講堂
(東京都千代田区大手町 1-3-4)

発表論文の募集

(1) 課 題

課題は次によるものとし, 論文の内容は独創性のあるものでなければならない。

- a) 自然風の性質
- b) 設計風速および風荷重
- c) 風と構造物との相互作用

d) 計測方法

(2) 応募方法

a) 論文提出希望者は49年3月末日までに所属学会, 氏名 (連名の場合は発表者に○印を付する), 勤務先, 職名, 連絡先を明記の上, 邦文 800 字以内の内容概要を所属学協会に提出する。

b) シンポジウム組織委員会は発表論文の採否を4月末日までに決定し, 応募者に通知する。

c) 原稿メ切は49年7月末日までとする (必着のこと)。

d) 執筆要領および原稿用紙は後日送付する。

以上